

④1 塩尻市北部交流センター整備事業

授賞機関 塩尻市

キーワード 市産材、住民協働、コミュニティ形成

全建賞審査委員会の評価ポイント

支所、公民館、子育て支援センター、図書館を集約・合築した拠点施設整備事業。市産材で製造したCLTパネルや集成材を適材適所に配置してコスト削減を図った点や、地域住民等と協働で施設整備を進めている点、完成後も当初の想定を上回る利用者数が来館し地域のにぎわいを創出している点が評価された。

1. はじめに

塩尻市は、松本盆地の南端、長野県のほぼ中央に位置する人口約67,000人の都市で、JR広丘駅を中心に形成された北部地域は、中心市街地に次ぐ第二の市街地である。北部地域に分散していた公共施設は、老朽化の進展によって快適性や利便性が損なわれており、新たな拠点施設の整備が望まれていた。

本事業はこのような課題の解消や地域のコミュニティ機能の強化、文化・伝統の継承等を促進する場を整備すべく、平成27年度に本格始動した事業である。

2. 事業の概要

本施設は、支所、公民館、子育て支援センター、図書館を集約・合築した拠点施設で、森林資源に恵まれた本市を特徴づける木造施設である。

子育て支援センターの壁面には、市産材で製造したCLTパネルを使用しているが、木材供給事業者や製材事業者との連携の下、建築工事に先立って原木を調達しラミナの製造を分離発注することで良質な材を確保することができた。

また、主構造を木造としながらも、大スパン空間の一部に鉄骨を使用するなどCLTを含めた適材適所の材配



塩尻市産CLTで囲まれた空間で遊ぶ子どもたち

置によって木造らしい風合いを生かしつつイニシャルコストの削減を図った。

施設整備にあたっての検討は、地域のまちづくり会議を足掛かりに、地域住民等で構成する検討委員会を設置したり市民ワークショップを開催したりと、より多くの住民が利用しやすい施設になるよう設計から運営に至るまで住民協働で検討を重ねてきた。オープン後の現在も、施設自身が常に進化し続けるため、運営協議会を組織し、地域と行政が一体となった研究を続けている。

3. 事業の成果

令和元年7月の開館以降、12月末までの6か月間の利用者が10万人を超え、当初の想定を大幅に上回る数字となった。複合施設の強みを生かして各機能が横断的に連携した企画や、多目的に使用できる交流スペースの利用が特に好調で、こどもを連れて遊びに来る親子や、友人と勉学に勤しむ学生、趣味に打ち込むシニアなど、様々な世代の利用者でにぎわっている。

また、駅や商店街の至近に集客核となる施設が整備されたことで周辺のまちにも波及効果が生まれており、地域の文化活動や企業のイベント等も行われる中で、本施設を拠点とした地域の活性化が始まっている。



地域との調和を意識した大屋根・妻入りの外観

4. おわりに

異なる目的をもった住民が一つの施設に集うことで今までになかった交流が生まれつつあり、新たなコミュニティが形成されようとしている。

施設を活用した取り組みによって、豊かで活力のある地域社会を実現するとともに、地域に対する愛着や誇りが醸成されることを願っている。

賛助会員 (株)宮本忠長建築設計事務所、松本土建(株)